

テーマ「愛情・生きる喜び・成長」

ここから始める

ご応募いただいた論文の中の事例をご紹介します

みくに稚園
(千葉県柏市)



品川区立
荏原西保育園
(東京都)

赤ちゃん!!

赤ちゃん

赤ちゃんの世話をする疑似体験の様子から、「赤ちゃんのことをもっと知りたい。かかわりたい」という子どもの思いを感じ取った保育者は...

モンシロチョウの赤ちゃんだって、人間と一緒に!

大事に育てている二十日大根の葉の穴を見つけ、それはモンシロチョウの幼虫が食べてできた穴だと分かりましたが...

お家ごっこで見られる赤ちゃん役の子どもの動きや赤ちゃんにかかわる他の役の子の様子から、子どもの「赤ちゃん」に対するイメージが見えてきます。その漠然としたイメージやごっこ遊びではなく、本当に赤ちゃんにかかわることで、子どもなりに「愛情」をもち、自分たちの「成長」を感じていることが伝わる姿が引き出されます。今回の事例は、そうした経験から「自分たちは何をしたらよいのか」を考え、相手のために進んで行動することの「喜び」を味わえたであろう実践をご紹介します。

実践事例集は、<http://www.sony-ef.or.jp/practice/index.html> ^

今年ソニー教育財団は50周年を迎えます。改めて皆様のご厚情ご指導、ご協力に心より感謝申し上げます。幼児教育支援プログラムでは発足当初2002年度に実施いたしました調査の変動や保育の実態を探るために、「保育に関する意識調査」を、今年度、再度実施いたしました。ご協力ありがとうございました。

ことばのたね

豊橋名産の天伯スイカを栽培しているビニールハウスは、子どもたちが楽しみにしている園外保育コースの一つです。収穫時期になり、いつにも増して興味津々で散歩に出かけたので「スイカがないよ」「どうしたのかな?」「売っていたよ」と、気付きました。時期が来ると収穫され、その後どうなるのか考える機会になりました。

そして、スイカをおやつにしました。

「わ~、大きい」「どのくらい大きいのかな?」「スイカの重さを量ろう」「大きさを測ろう」「メジャーで測ろう」と言い、測ってみるとスイカの回り80cm、重さは9.5kgでした。

「スイカとみんなと、どっちが大きいかな?」と保育者が尋ねると、子どもたちは「どっちが大きいかわからないよ」と言い、「じゃあ、スイカと同じぐらいの子どもっているのかな?」と考えました。

どのくらい大きいのかな?



重くて、びっくりした



「スイカの重さ9.5kg」を思い浮かべながら、保育園にいる0歳の子、1歳の子と、順に考えていると...

「Aちゃんと一緒にいたいよ!」と気が付きました。

スイカと同じ重さの子がいることを知り、「抱きたい!!」ということになり、1歳児の子どもたちの所へ行きました。

「重いね」「軽い軽い」「ずっしりしているね」「重くて、ビックリした」などと、感じたことを言いながら、1歳の子もたちとのかかわりを楽しみました。

小さな子どもを抱いた嬉しさが、伝わってきました。

5歳児

円通寺保育園(愛知県豊橋市)

